

1. 調査について

1. 調査の目的

ヤングケアラーとは、本来大人が担うとされている家事や家族の世話などを日常的に行っている子供のことを指し、勉強や遊びに対する時間が取れず、本来守られるべき子供の権利が侵害されている可能性がある。

そのため、本区におけるヤングケアラーの実態を把握し、きめ細やかな支援につなげていくとともに、ヤングケアラーに関する啓発を行い、気づきを促すことを目的として、小学4年生から6年生、中学1年生から3年生及び高校生相当年齢を対象にアンケート調査を実施した。

2. 調査対象及び調査方法

(1) 調査対象学年及び人数

	学校種別	学年	対象校数	対象人数
小学生	区立小学校	4年生、5年生、6年生	19校	3,588人
	区立外小学校		—	271人
	小計			3,859人
中学生	区立中学校	全学年	7校	2,186人
	区立外中学校		—	1,252人
	小計			3,438人
高校生相当 年齢※	—	全学年	—	3,325人
合計				10,622人

※平成17年4月2日生～平成20年4月1日生の方

(2) 調査方法

区立の小学校、中学校に在籍する児童・生徒においては、各学校を通じて保護者と生徒に調査依頼文を配布し、依頼文のURL、二次元コードからインターネットに接続し、回答して頂いた。また、筆記での回答を希望する生徒においては、紙媒体による調査票を配布し、回答して頂いた。

区立外の小学校、中学校に在籍する児童・生徒、高校生相当年齢の方においては、郵送にて対象者に調査依頼文を配布し、依頼文のURL、二次元コードからインターネットに接続し、回答して頂いた。

(3) 調査期間

令和5年9月1日～令和5年10月20日

(4) 回収結果

	対象人数	回答数	回答率
小学生	3,859人	1,298人	33.6%
中学生	3,438人	1,945人	56.6%
高校生相当 年齢	3,325人	456人	13.7%
合計	10,622人	3,699人	34.8%

(5) 報告書の表記

- 回答の比率(%)は、全て百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、回答の比率の合計が100.0%に満たない、または上回ることがある。
- 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を母数として算出した。したがって、複数回答の設問は全ての比率を合計すると100.0%を超える場合がある。
- 家族構成について、
 - 『二世帯世帯』は、問3で「お母さん」かつ「お父さん」を選択している人
 - 『三世帯世帯』は、問3で「お母さん」または(かつ)「お父さん」を選択し、「おばあさん」または(かつ)「おじいさん」を選択している人
 - 『ひとり親家庭』は、問3で「お母さん」、「お父さん」、「おばあさん」、「おじいさん」のどれか1つのみを選択している人とした。
- 中学生及び高校生相当年齢への調査内容は同一内容とした。そのため、各設問のグラフは小学生のものと中学生及び高校生相当年齢を合算したものを併記している。
- 国調査の結果は、「3.クロス集計(世代別による状況)」のそれぞれの表中に本調査結果と合わせて掲載している。
- 表中の国の調査の結果は、小学6年生・中学2年生・高校2年生(全日制)を対象とした調査の結果である。また、合計の割合は公表されていない。
- 掲載している自由回答は、寄せられた回答の一部を抜粋している。回答内容は、原則として原文のまま掲載しているが、誤字、脱字については修正している場合がある。